男女共同参画へ一歩いっぽ。〔パ・ザ・パ〕

Pas à pas

No. 27
2016 WINTER

P２　特集 「女性視点の防災」

～岩手・熊本の女性に学ぶ～

経験者が語る震災リアル

P10　女性の活躍応援事業所紹介

株式会社マエザワ

P12　しずおか女子きらっ☆シンポジウムを開催しました。

※Pas à pas〔パザパ〕：仏語で「一歩いっぽ」を意味します。

特集：「女性視点の防災」 ～岩手・熊本の女性に学ぶ～

経験者が語る震災リアル

あなたの防災対策、大丈夫 ？

東日本大震災から6年、熊本地震から9か月。地震だけでなく、私たちは様々な災害と隣りあわせで暮らしています。今回は、東日本大震災、熊本地震を経験した女性からお話を聞きました。あの日、あなたはどこにいましたか。そして、何を感じましたか。インタビューでは、当日の様子や生活する中で不便に感じたこと、役に立ったことなどを中心に、貴重なお話を聞くことができました。‘もしも’のときにいかしたい一人ひとりのリアルストーリーです。

私たちはどのような備えをすればいいか、また女性目線にも立った地域防災について考えていきましょう。

<<<<<<<<<< 東日本大震災
2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波およびその後の余震によりひき起こされた大規模地震災害。

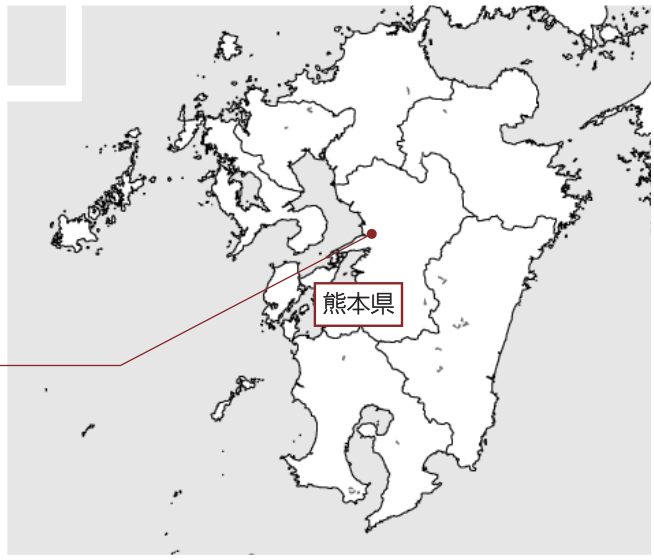
story①⑤
盛岡市

story⑤
山田町

story③④
陸前高田市

※3ページから6ページに登場する千葉さんはご家族です。千葉さん一家が当日、それぞれどのように過ごしたか、家族とどのように連絡を取り合ったかという状況を読みとることができます。

story②
一関市



story⑥
熊本市

熊本地震 >>>>>>>>>>>
2016年4月14日より熊本県を中心として発生した一連の地震。

表紙の写真の提供 ： 左上より　東北地方整備局、宮城県気仙沼市、東北地方整備局、岩手県田野畑村、岩手県復興推進局
中央上　岩手県山田町　中央下　宮城県気仙沼市
右上より　岩手県復興推進局、静岡市危機管理総室、岩手県復興推進局、個人提供（2枚）

story① 千葉文香さん　岩手県盛岡市　友人宅で談笑中　大学３年生

友人と話したり、一緒に過ごしたりしていると安心しました。

＃避難

東日本大震災が起きた３月11日、私は大学の友人数人と盛岡市内にある友人の家にいました。大きな揺れがおさまった後、全員で近くの大学構内に避難しましたが、日が暮れかかってきたため、友人数名を自分のアパートに呼び、数日過ごしました。

私が暮らしていたアパートは、地震後２日間停電していました。幸い水道とガスは使えたので、調理して食事をとることができました。お米は土鍋で炊きました。

＃寒さ

３月の盛岡市はまだまだ寒いので、風邪をひかないように厚着をして過ごしました。私の家にはこたつと石油ファンヒーターがありましたが、停電で使えず、一緒に過ごした友人が家から持ってきた**石油ストーブ**で暖を取ることができました。

＃家族との連絡

盛岡市内でもしばらく余震は続き、家族との連絡も取れず相当不安で「ダメかも」と思うときもありましたが、友人と話したり、一緒に過ごしたりすることで気持ちを落ち着かせていました。

私の家族は沿岸の陸前高田市に住んでいて、10日以上連絡が取れなかったと記憶しています。母が特設の**衛星電話**に並んで私の携帯電話にかけてくれて、ようやく連絡を取ることができました。

停電中、役に立ったものは**ラジオ**でした。テレビや携帯電話が使えない時、ラジオは唯一の情報源になります。特にコミュニティＦＭは地震に限らず、台風の時でも地域の情報が分かるので便利だと思います。

地震発生後には、誤った情報が流れたり、ありもしない噂が流れたりしたので、情報には気を付けた方がいいと思います。

今、わたしが伝えたいこと

＃支援物資　＃防災

私は余震が落ち着いた４月に陸前高田市の実家に帰省しましたが、そこでの食事は配給でいただいた缶詰でした。外国製で味が日本人向きでないなど、毎日食べるにはつらいものもありました。みなさまからのご支援でいただいているものではありますが、小さい子どもから高齢の方でも栄養がとれて食べやすいものがあったらいいなと思いました。

最後に、東日本大震災は前例がなく、住民だけでなく役所の方々も大変な思いをしたようです。静岡市のみなさんが防災に関心を持ち、いざというときに最も安全な行動をとることができるように、私の経験が少しでも参考になれば幸いです。

千葉　文香 さん

震災当時は岩手県盛岡市に住み、市内の大学へ通学。住んでいたアパートに被害はありませんでしたが、２日間の停電と、店舗の物資不足に遭遇しました。

衛星電話の様子

提供：岩手県田野畑村

特設の公衆電話の様子

提供：岩手県山田町

story② 千葉和歌奈さん　岩手県一関市　学校で講義中　看護学校１年生

物資の分別・情報交換のためにも、近所付き合いは大切です。

＃一緒に

当時、私は看護学校の１年生で、一関市内の学校で講義を受けていました。大きな揺れの後、先生方や上級生の指示で外の広場に集合し、人数の確認がありました。

揺れがおさまった後に、荷物を取りに校舎へ戻りましたが、建物にはひびが入り、窓ガラスも割れていたので、かなり注意が必要でした（建物はこの地震で傷み、その後取り壊されました）。とりあえず最小限の荷物だけを持って、同じ方向に帰る人たちがまとまり、帰宅しました。私は学校の寮生だったので、同じ寮の人たちと一緒に帰りました。

＃家族の安否

震災後しばらくは携帯電話がつながらなかったので、テレビを見て、家族が避難所にいないか名前を確認しました。避難している人の名前の中に家族の名前があれば無事が確認できると思いましたが、残念ながら確認できませんでした。連絡が取れず、状況がわからないことで不安はかなり募りました。

二週間ほど経って、ようやく家族と電話がつながり、全員無事だとわかった時は、本当に嬉しかったです。

＃避難所で

震災から数週間は寮で過ごしていましたが、震災直後は一関市内の避難所にも出入りしていました。小学校を避難所にしたものでしたが、避難所には、仕切りがなく、着替えがしづらかったことと、停電で暗くて怖かったことが印象に残っています。

家族との連絡が取れた後に、父が迎えに来てくれたので、地元に帰りました。

地元の陸前高田市に帰った後、祖父が地区の区長だったので、支援物資を分けてそれぞれの家庭に配布する係を手伝っていましたが、それを毎日しなければならないのは、少しストレスに感じました。でも、自衛隊が校庭に仮設のお風呂を設置してくれたことは大変助かり、心が落ち着きました。

今、わたしが伝えたいこと

＃備え　＃近所付き合い

今思うことは、普段から避難時すぐに荷物を持ち出せるように、防災グッズをまとめておき、家族と共有できるようにしておくこと、飲料水や非常食を用意しておくこと、新聞やテレビで、防災に関する情報を仕入れておくこと、それから何よりも近所づきあいが大切だということです。

また、これからは若い人や女性も参加しやすい防災訓練にしていくことが必要なのだと思います。

千葉　和歌奈 さん

一関市内の看護学校に在籍。地震の後、家族と連絡が取れた後に実家がある岩手県陸前高田市に帰省。実家では、断水と停電のため、沢から水を引いて使用したり、七輪を使って料理をしたりしました。

避難所の様子

提供：岩手県大槌町

避難所の様子

提供：宮城県七ヶ浜町

story③ 千葉紅実さん　岩手県陸前高田市　高校の体育館で部活中　高校２年生

町が一日でがれきの山になり、これからどうなるのか不安でした。

＃裏山に避難

あの日、私は体育館で部活動の卓球をしていました。揺れが収まってから、校舎の裏山のグラウンドに避難し、夜は野球部の屋内練習場で**毛布**に７人でくるまって過ごしました。

＃人づてに

かばんや携帯電話を置いていた部室は津波で流され、家族とは連絡が取れませんでした。両親は人づてに私のいる場所を知り、翌日迎えに来てくれたと記憶しています。

＃物資不足

個人的には不便に感じませんでしたが、父が買い出しの際、**粉ミルク**や**紙おむつ**の不足を目にしたようです。乳児や介護を必要とする人をお世話をする人は不便だったと思います。**常備薬**も不足していたようで、困った人は多かったと思います。

＃支援物資

近所の小学校は避難所になり、支援物資の配給、安否情報の提供もしていました。全国から支援物資が届き、ありがたいと思いました。配給を通じて、近所の人とのつながりが強くなったことを実感しました。

避難所では、教室ごとに更衣室や授乳スペース、子どもの遊び場、相談スペースに区別されていたので、小さな子どものいる方にとっては良かったと思います。

体育館の和式トイレは、高齢者や妊娠中の方には使いづらかったと思いますが、仮設のトイレやお風呂が設置されて、かなりストレスが減ったと思います。

町が一日でがれきの山になり、これからどうなるのか不安でした。余震が長く続いて怖かったし、**サイレンの音**が不安を助長するように感じました。友人や先生、お世話になった方が行方不明になったり、亡くなったりしたことも悲しいことでした。

電気や水のない生活も段々とストレスになりましたし、高校が被災して、大学受験も心配でしたが、家族と一緒に過ごせたので落ち着くことができました。

今、わたしが伝えたいこと

＃備え　＃人とのつながり　＃女性目線

普段からの備えとして、避難に必要なものをまとめて枕元や玄関などに置いて、すぐ避難できるようにしておくことが大切だと思います。家族の間で、災害が起きたときの避難経路、避難場所をあらかじめ決めておくことや、近所の人たちとのつながりも精神的な安心につながると思います。

私は年に１回、地域の防災訓練に参加していますが、妊婦さんや乳幼児のいる女性、障害のある方や医療や介護を必要とする方の目線に立って、状況設定した防災訓練を重ねることが、よりスムーズな避難につながるのかもしれません。

千葉　紅実 さん

震災当時は、岩手県陸前高田市内の高校に在学。高校が被災し、近隣高校の校舎に移転。５月２日に新学期が始まり、岩手県内では一番遅い始業となりましたが、その後無事に進学することができました。

岩手県立高田高校第２グラウンドから見た風景

岩手県立高田高校校舎風景

岩手県立高田高校第２グラウンドの亀裂

個人提供

story④ 千葉江利さん　岩手県陸前高田市　パート先で伝票整理中

社会的弱者を想定しを想定した訓練や対策が必要だと感じます。

＃渋滞

私はパート先の陸前高田市のホームセンターで震災に遭遇しました。強い揺れだったので、とりあえず出口を確保し、揺れが収まってから駐車場に移動し、従業員の人数を確認した後、パートとアルバイトは帰宅しました。道路は非常に混んでいて、駐車場からなかなか出ることができませんでしたが、津波がくる前に家に戻ることができました。

＃生活

私の自宅は高台にあったので無事でしたが、被災して体育館などに避難した方は、寒くて、プライバシーもなく大変だったようです。

また、震災直後は、近所の人が灯油を盗まれたり、娘は仮設のお風呂に行った際にスニーカーを盗まれたりしたこともあり、疑心暗鬼になることもありました。一方、仮設のお風呂の脇に髪を乾かすスペースが造られ、そこに造花が飾られるなど、心和むこともありました。

生活する上では、水を節約するため、茶碗を**ラップ**で覆い、食後はラップを捨てて、洗わずに済むようにしました。

また、停電で暖房が使えず、非常に寒い思いをしましたが、後になって**ペットボトル**にお湯を入れ、湯たんぽ代わりにしていたことを聞き、暖房が使えないときには試してみたいと思いました。

今、わたしが伝えたいこと

＃備え　＃買いおき　＃社会的弱者

普段の備えとして、停電にも影響されない**反射式ストーブ**を１台用意しておくといいと思います。更に断水に備えて**水を入れるタンク**を用意しておくことも重要です。そのタンクを運ぶ際は、**キャリー**があると便利です。その他にも、停電が長引いた時に備えて、**ローソク**と**電池**を多めに用意しておくことも必要です。

わが家では、幸い食料や**トイレットペーパー**や**ティッシュ**をまとめ買いしていました。農家なのでお米の備蓄もあり、物資が無いことで緊迫した状態になることはありませんでしたが、パニックにならないためにも最低限の備えは必要と感じました。

また、**カセットコンロ**や**ボンベ**を常備しておけば、温かいものも食べられます。

今後、私たちが住む地域は今以上に高齢化し、避難が大変になってくると思います。給水車に水をもらいに行けないなど、社会的弱者を想定し、普段の訓練や対策を考えていくことも必要だと感じます。

千葉　江利さん

勤務中に地震に遭遇。近所のコミュニティセンターが県立病院になったことから、医師や看護師の食事作りや、避難所への炊き出しのボランティアに参加しました。

仮設風呂の様子

提供：岩手県山田町

仮設風呂の様子

提供：宮城県七ヶ浜町

story⑤ 平澤由佳さん　岩手県盛岡市　アルバイト先で仕事中　大学生

特に女性は、年代や立場によって災害時に困ることが変わります。

#アルバイト中に

私は当時、盛岡の大学に在籍しており、市内のアルバイト先で仕事をしていました。揺れが落ち着くまではアルバイト先の人たちと一緒に過ごしました。

家族は沿岸の山田町にいましたが、ラジオだけでは情報はつかめませんでした。３月11日から一週間後に、山田町の避難所に設置された**衛星電話**を使って、母から私の携帯電話に連絡が入りました。

#ボランティア

３月下旬、ボランティア活動をするため、地元の山田町に戻りました。道端には瓦礫の山があり、断水や停電が続いたままでした。食べ物の多くは、自衛隊の方が運んできてくださった物資の配給でした。

#衛生面

私が不便に感じたことは、衛生面です。トイレやお風呂が自由に使えず、**生理用品**も不足していました。乳幼児をもつお母さん方の間では、**ミルク**や**おむつ**の不足も問題となっていました。これらの物資はなかなか届かなかったのです。

混乱している中での情報は、何が真実なのかわからないことが多々あります。間違った情報が広まっていることもあり、すべてを信じてはいけないことを学びました。

今、わたしが伝えたいこと

#備え　#ネットワーク　#女性の立場

近所との付き合いは大切です。岩手県の沿岸は、漁業等の職業のつながりがあり、地域の人口が少ない分、ネットワークがしっかりしています。都市部においても、近所との付き合いが、いざというときの命の救いになると思います。

最後に、特に女性は年代や立場によって災害時に困ることが変わります。若いうちは避難所のプライバシーがないことに困り、母親である女性は自分自身のことだけでなく、子どものことでも困ることがあります。その子どもが幼ければ、母乳やオムツのことなど困ることは多くなります。

また、介護をしている女性は、要介護者と一緒に避難しようとすると、移動の際に困難が生じます。

普段の防災訓練では、このような女性の立場の困難さを考える機会を設け、声を届けることがとても必要だと思います。

さらに、訓練の中では、備蓄倉庫に入れておいてほしいものについて、意見を出す機会を設けることも必要だと思います。

そして、日頃からネットワークを広げ、いざというときに助け合える関係づくりをしていくことが大切だと感じました。

平澤　由佳 さん

地震発生時は、岩手県盛岡市内でアルバイト中でした。３月下旬に実家がある岩手県山田町に帰省し、ボランティアに参加しました。

ボランティアの様子（山田町）

提供：岩手県山田町

震災後の山田町の様子

提供：静岡市危機管理総室

story⑥ 作下千絵さん　熊本県熊本市　自宅で就寝中　子ども１人

避難者が食べ物を持ち寄って、カレーなどを作って食べました。

#自宅待機

地震発生時は、自宅で就寝中でした。揺れがあってから、**食料**や**着替え**などを**リュックサック**に詰めて朝まで家で待機していました。夜中だったので、家族全員と一緒に行動することができました。

#余震

本震のあった４月16日の昼に避難所となっている学校に行きましたが、すでに人がいっぱいで廊下、玄関に寝ている人も大勢いました。

物資はまだ届いていなくて、避難者が食べ物を持ち寄って、カレーなどを作って食べました。

授乳室が設けられていてとても助かりましたが、図書室だったため、余震のたびに本が倒れてくるのではないかと心配でした。

とにかく余震が多くて怖かったのですが、前震も余震も夜だったため、夜が怖く、よく眠れない日が一か月ほど続きました。

#安否確認

電話はなかなかつながらなかったのですが、**LINE**（ライン）はすぐにつながったので、安否確認には便利でした。

今、わたしが伝えたいこと

#片付け　#家具の固定　#地域防災

断水中には、水を運ぶための**ポリタンク**とそれを運ぶための**台車**があると便利だと思いました。また、家の中で割れた食器などを片付けるための**厚手の手袋**、**大きなゴミ袋**と、停電時には掃除機が使えないため、**ほうき**と**ちりとり**があると便利です。

家の中では、日頃から、食器棚の扉を**ロック**したり、食器の下に**滑りにくいシート**を敷いておくと、扉が開いたり、食器が動いたりしないで済みます。

マンションの機械式駐車場は、地震後、自動でロックされ、一週間ほど車を出すことができませんでした。立体式の駐車場や機械式駐車場に停めている方は、自転車やバイクなど、車以外の移動手段も考えておいた方がいいと思います。

これまで私の住んでいた地域では、防災訓練について聞いたことはありません。炊き出しの段取りやペット連れの被災者への対応、避難所運営本部の立て方など、実際に避難してみないとわからないことも多いと思います。一晩だけでも避難所開設訓練をしてみたらいいと思います。

最後に、全国の方からのご支援本当にありがとうございました。静岡の方からもたくさんのご支援ありがとうございました。

作下　千絵さん

就寝中に地震に遭遇。揺れにより、食器棚の中の食器が割れたり、家のものが散乱しました。電気温水器が落下して壊れたことにより、２か月間お風呂に入れなくなるなど、不便な生活を強いられました。

＜作下さん宅の被害の様子＞

普段の様子

４月14日　震度５強

４月16日　震度６強

本人提供

静岡市女性会館（アイセル21）図書コーナー所蔵　図書紹介

防災かあさん

みんなの防災部 著　羽鳥書店　2015年３月発行

「わたしの家族はわたしが守る!」「いざという時、わたしは、家族はどうするだろう」と、自分で考えるきっかけとなる質問を集めてあります。日本の災害の知識、日頃の備え、災害時の行動から避難所生活まで、90問の多様なＱ＆Ａで防災知識を身につけることができる防災ハンドブックです。

災害支援に女性の視点を！

竹信　三恵子 編 赤石　千衣子 編　岩波書店　2012年10月発行

「東日本大震災女性支援ネットワーク」を立ち上げた女性たちが、被災地でのセクハラやDV、雇用不安といった女性被災者の実情を報告し、女性を視野に入れた多様な支援のあり方を考えるための提案がされています。巻末にある、「女性の視点からの避難所づくりマニュアル」は、住民による避難所運営の参考になる内容です。

被災ママ812人が作った子連れ防災手帖

つながる.com　編　株式会社KADOKAWA メディアファクトリー 2012年３月発行

「子どもと連絡が取れない」「妊婦で被災」「避難所や自宅避難での生活」…。震災に直面したとき、どうやってわが子を守ったか？ 東日本大震災で被災したママたちの体験談を紹介し、それらをもとにした親子の防災対策をまとめています。ママ目線での防災グッズや女性ならではの防災術、防犯対策も詳しく紹介されています。

図書コーナーの利用について

利用時間　午前９時～午後７時
休室日　毎月第２・４月曜日、年末年始　蔵書点検期間
図書整理日、その他臨時休館日
貸出点数　図書・雑誌あわせて５点、ＣＤ・カセットあわせて２点まで
貸出期間　２週間
静岡市葵区東草深町３－18　TEL：054-248-7330　HP：http://aicel21.jp/

市民編集スタッフの声

小針　幸子さん

今回の特集は、実体験に基づいた声であり、役立つものが沢山ありました。その中でも、一番心に残ったものは、地域防災の在り方です。

地域の防災訓練の在り方、対策、備蓄倉庫の品目、それらを決める際にもっと様々な立場に立つ女性の意見を積極的に取り入れることの大切さを痛感しました。実際の震災に備えて役に立つ防災の在り方についてもっと考えていき、地域が動き出せたら良いなと思いました。

比留間　真紀さん

先ずは「我が家の防災」を見直そうと思いました。旅行で使うリュックにもなるキャリーに自分仕様の防災用品を入れておけば、旅行や帰省の度に中身を確認+更新できるし、水などの配給の時にも持ち運びが便利なのではと思いました。防災には、被災後の生活も想定した備えや心構えも必要だ、と思いました。

「地域防災」では、今回の学びをいかして、女性という立場から発言できる人間にならないといけないな、と感じました。

船木　千佳さん

きっと自分は大丈夫、は無いということ。

地震は起こりうる、と頭ではわかっていても、被災地の状況と、今の自分の生活を重ねて考えることが出来ず、どこかで『自分は大丈夫』と思っていました。

しかし、今回、何ら私たちと変わらない生活を送っていた人たちが、突然何日間にも及ぶ避難生活を送り、家族の安否が分からず不安な日々を過ごした事実を知り、自分の身にも起こりうることだと、現実として受け止めることができました。

松永　裕美さん

１歳の息子がいるので、おむつや食べ物など子供の為の物資や避難所での過ごし方など、母親の目線としての防災ということを今回は自分なりに考えました。インタビューの中にご近所の方との助け合いが大切という回答があった様に、小さい子供を抱えての避難は周りの方の助けが必須です。これからはご近所や地域の方とのコミュニティをもっと広げていこうと思います。いつも挨拶程度のお隣の方が、明日の我が身をもしかしたら助けてくれることだってあるかもしれません。

女性の活躍応援事業所紹介

社員の意見を反映、働きやすい環境づくりへ

― 株式会社マエザワ ―

今回は、平成27年度静岡市女性の活躍応援事業所表彰において大賞を受賞された「株式会社マエザワ」代表取締役社長　前澤秀勇　様にお話を伺いました。

Life Design Pion

株式会社マエザワは、創業時は清水銀座商店街の家具店でした。平成６年に現在の清水区船越に移転し、平成14年に家具と雑貨のお店としてリニューアルオープンしました。「Pion（ピオン）」の名で親しまれ、インテリア雑貨や家具、文具等豊富に取り揃えております。店内にはカフェが併設されています。

お客様のためにスキルアップ

当社では社員の教育に力を入れています。お客様に寄り添った接客ができるように、リビングスタイリストの資格取得を奨励しています。

ほかにも、インテリアコーディネーターやカラーコーディネーターなどの資格もありますが、会社で資格取得にかかる費用の助成をしているので、働きながら資格取得が可能です。

資格のほかに、最近では「接心」ということを心がけています。「接心」とは、心から接する接客のことですが、この「接心」トレーニングを今年度から各店舗で実施しています。映像を見て、お客様にどうしたら喜んでもらえるか考えるなど、ディスカッションをするといったトレーニングです。

雑貨を売るために、接客は一番大切なことなので、お客様に喜んでいただくためにはどうしたらいいか常に考え、社員のスキルアップには積極的に取り組んでいます。

雑貨店というのは女性のスキルや視点がとても重要になってきます。

静岡市内と富士市内に合わせて４店舗ありますが、そのうち３店舗の店長は女性です。入社してからは販売員として、お店全体のことを理解してもらいます。その中で、スキルアップのための教育プログラムがあるので、早ければ５年程で店長になることが可能です。

働きやすい環境のために

女性社員の平均年齢は27～8歳くらいです。現在も育休の方が３人います。

年に２回、全体で集まる社内研修があります。強制ではありませんが、育休中の方に対しても、研修への参加を呼びかけているほか、復帰後の働き方の希望を聞き取り、申し出によってお子さんの就学前まで、短時間勤務とすることも可能にするなど、育休明けに少しでも復帰をしやすくするような取組を行っています。

そのほかにも、年に１回、有給休暇と公休あわせて７日間の連続休暇を促進しています。それぞれ旅行に行ったり、家族と過ごしたりするなどして、リフレッシュの時間に充てています。

社員の中には、保育園の関係などから、短時間勤務で働いている方もいます。当社は９時～18時、12時～21時と２つのシフト制なので、独身の方は12時～21時のシフトが多くなってしまいます。

社員たちは、お互い様という気持ちをもって協力してくれています。このような個々の事情によって偏りがちな負担をできるだけ減らせるように、働き方改善を目的としたプロジェクトチームを社員有志が発足させました。

会社の戦力として

この会社は女性が多く、女性が中心となっている会社です。２、３年勤めて結婚し、退職してしまうのではなく、一時的に子育ての期間はあっても、また復帰して、長く勤めていただき、会社の戦力になって欲しいと思っています。

そこで、ずっと働くために、働きやすい環境とはどういうことだろうと考え、プロジェクトチームの中で、働き方の改善点を模索するために、まずは全社員を対象にしたアンケートを実施し、意見を聞きました。

プロジェクトチームはまだ発足したばかりで、アンケートをとったばかりですが、今後結果を分析し、フィードバックしていく予定です。今後も働きやすい環境をつくるために、一丸となって推進に取り組んでいきます。

株式会社マエザワ

事業内容：家具、インテリア及び生活雑貨、服飾の販売

所 在 地：〒424-0863
静岡県静岡市清水区船越南町802－１
（Ｐｉｏｎ清水店）

電話番号：054-351-8282（Ｐｉｏｎ清水店）

従業員数：61名（男性８名、女性53名）
正社員　31名　パート　30名
※平成28年10月現在

ホームページ：http://interior-maezawa.co.jp/

「しずおか女子きらっ☆シンポジウム」を開催しました

第１部基調講演
勝間和代様

田辺市長挨拶

静岡市は、「しずおか女子きらっ☆」プロジェクトの一環として、平成28年９月23日（金）、ホテルセンチュリー静岡において「しずおか女子きらっ☆シンポジウム」を開催しました。

第１部では、内閣府男女共同参画会議議員で経済評論家の勝間和代さんが、女性の活躍によって企業経営にもたらされる効果についての基調講演を行いました。

その中で、女性の社会進出が遅れている原因は長時間労働であると指摘し、ワーク・ライフ・バランスの推進により時間当たりの労働生産性を上げる必要性を述べました。

第２部では、地元企業３社による具体的な取組好事例紹介とともに、傾聴による個々の状況に合わせた対応の必要性などについてパネルディスカッションを行いました。

パネリスト　左から
株式会社いちまる　本多様
株式会社静岡銀行　鈴木様
株式会社竹屋旅館　竹内様

各種相談窓口のご案内

ＤＶに関する相談

静岡市配偶者暴力相談支援センター

葵　区　２２１－１２７４
駿河区　２０１－９１２６
清水区　３５４－２３３５
緊急の場合は警察110番へ

女性のための相談室

アイセル21

※事前予約が必要です。
２４８－１２３４
予約受付 火～土 午前10時～午後５時
・カウンセリング　火・水・金　午前10時～午後８時
木・土　午前10時～午後４時
・法律相談（第１土・第３木）午後１時～午後４時

男性電話相談

・メンズほっとライン静岡（男性電話相談）
２７４－０１０５（荷なし　おとこ）
毎月第２・４火曜日（祝日を除く）
午後７時～午後９時

女性活躍推進法が施行されました

平成27年８月28日、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が制定され、平成28年４月１日に施行されました。これにより、働く場で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主（国や地方公共団体、301人以上を雇用する民間企業等）に義務づけられました。

日本には、女性の就業希望者等が303万人おり、25歳～44歳では約161万人います。今後、女性の活躍する場面が多くなればなるほど、潜在的な力が発揮される可能性が大きくなると期待されています。

パザパ27号へのご意見・ご感想をお寄せください。

〒420-8602　静岡市葵区追手町５－１　静岡市市民局男女参画・多文化共生課
TEL：054-221-1349　FAX：054-221-1782　Eメール：sankaku@city.shizuoka.lg.jp

再生紙を使用しています。　PRINTED WITH SOY INK 大豆油インクを使用しています。

Pas à pas　男女共同参画へ一歩いっぽ。（パ・ザ・パ）
発行／静岡市市民局男女参画・多文化共生課
企画編集／市民編集スタッフ　小針幸子・比留間真紀・船木千佳・松永裕美